

なぜリーフレタスなのか?

リーフレタスは一般家庭での消費に加え、コンビニやレストランなど業務筋からの引き合いも強く、年間を通じて安定した出荷が求められています。また玉レタスに比べて生育期間が短く軽量で、収穫適期がやや長いことなどにより、比較的栽培しやすい品目です。



一作型にあつた品種を選ぼう!

低温期に定植し、生育後半が暖かくなるこの作型では、耐寒性と低温肥大性に加え晚抽性を有した品種を選択します。主な品種は以下の通りです。

「グリーンジャケット(タキイ)」
「晩抽レッドファイア(タキイ)」



◆定植
定植3週間前にたい肥や土壤改良資材を施用し、深耕します。マルチ栽培のため全量元肥施肥とし、化成肥料と有機質肥料や緩効性肥料を組み合わせます。10aあたりの成分量でチツコ19kg、リン酸22kg、カリ22kg程度です(たい肥を

水し、乾燥防止のため新聞紙等で被覆します。この作型の育苗期は、厳寒期にあたるためバイブルハウス等を利用します。セルトレイは過湿を防ぐために、プロックなどを利用し床面から上げて風通しを良くします。夕方には土の表面が乾くようになります。かん水量は底穴から水滴が少し出る程度とし、セルトレイの周辺部は乾燥しやすいため、多めにかん水してください。

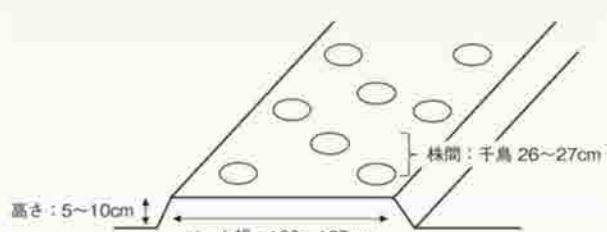
育苗日数は40~50日程度で、本葉3~4枚で葉長5cm程度の充実した苗を作ります。

◆かん水
リーフレタスは生育が順調に進んだ、株張りの良いものが良品となります。その為には全期間を通して、ストレスなく生育させることが必要です。極端な水分量の増減は葉の肥大や株の充実に影響し、品質低下を招きます。適宜かん水を行いスマーズな生育を促してください。な

最後に

施用する場合はチップ2kgを減肥します)。浅根性であるため元肥は定植10日前に施用し、表層10cm程度で軽く耕うんします。マルチは黒マルチを使用します。栽植様式は図の通りで、栽植密度は7000~7200本/10a程度になります。定植時に土壤が乾燥している場合、かん水し活着を促します。

リーフレタスの植栽様式



◆病害虫防除
病害は菌核病、灰色かび病、ベト病、軟腐病、斑点細菌病などが発生します。害虫はアブラムシ類、ヨトウムシ類、オオタバコガなどが発生します。病害は殺菌剤が株元に到達しやすい生育前半から予防的な防除を徹底してください。

◆収穫
は種後90日程度で収穫可能になります。株張りが直径30cm、草丈25cm程度で、芯葉が伸びて盛り上がり、株に厚みが出た頃に収穫します(1株300g程度)。収穫後、切り口から白色の汁液がにじみ出で、時間が経つと酸化・赤褐変し、見た目が悪くなります。切断直後に切り口を上向きにして置き、汁液を濡れた布で拭くか噴霧器などで洗い流しましょう。葉の痛み防止や鮮度保持のため、出荷用フィルム袋に入れ出荷します。

リーフレタスは一般家庭での消費に加え、コンビニやレストランなど業務筋からの引き合いも強く、年間を通じて安定した出荷が求められています。また玉レタスに比べて生育期間が短く軽量で、収穫適期がやや長いことなどにより、比較的栽培しやすい品目です。

宮農だより

リーフレタス4~5月とり栽培のポイント

神奈川県農業技術センター三浦半島地区事務所 高橋 匠

リーフレタスは主要葉物野菜として年間を通して安定供給が求められていますが、温暖地から高冷地に産地が切り替わる春先が端境期となっています。そこで、比較的価格が安定する4月下旬~5月上旬に収穫を狙うリーフレタス栽培について紹介します。



栽培中のリーフレタス

作型図

月	1	2	3	4	5	6	7	8
旬	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
作型				●	▼	▲	■	
ポイント	●播種	▼定植	▲ハウス	↔不織布べた掛け	■収穫			
備考	・種子が小さく好光性で発芽管理が難しいためコート種子を使用する。 ・降霜の心配がなくなるまで不織布をべた掛けにする。 ・収穫期は比較的高温になるため、収穫遅れに注意する。							